

勤労感謝の日



11月23日は国民の祝日『勤労感謝の日』です。

『勤労をたつとび、生産を祝い、国民たがいに感謝しあう』

という趣旨の元、1948年に国民の祝日として制定されました。

簡単にいうと、「働く事を大事にし、作った物を皆で感謝して喜び合う日」なので、決して「勤労に感謝する日」でも「働く人に感謝する日」でもありません。

実はこの11月23日という日は元々『勤労感謝の日』ではなく**『新嘗祭（にいなめさい）』**と呼ばれる祭りで、宮中祭祀が行なわれる日でした。

『新』は新穀(その年に収穫した新米・穀物)

『嘗』は「嘗(な)める＝味わう・試す」という意味です。

この新嘗祭とは天皇が日本国民を代表し五穀豊穰（豊作であること）そして命の糧を授けて頂いたことに対する神への感謝を捧げるための祭り、つまり日本の収穫祭なのです。

天皇だけでなく国民全員も天皇と一体になり、秋の実りを神に感謝する、非常に大切な一日でした。

現在と違い、当時は国民のほとんどが農家で、新穀（その年に収穫される新米・穀物）がちゃんと収穫できるかどうかは生死に関わることでした。よって、春にその年の五穀豊穰を祈り、秋にはその実りに感謝するという風習は、現代では考えられないほどに重要な意味を持っていたのです。



戦後、皇室に関わる行事が祝日として残る事を当時のアメリカ(GHQ)が嫌い、天皇と国民が一体であった新嘗祭は宮中のみでの祭祀となり、国民からは完全に切り離され、11月23日は『新嘗祭』から『勤労感謝の日』となりました。

アメリカにも労働に感謝する祝日があり、そちらを参考にした部分もあるようです。名称は変わりましたが、**『生産したものに感謝する』**という本来の意味は伝えていきたいものですね。

～当院の勤労感謝の日行事食～

10月20日夕食に勤労感謝の日の行事食をしました。

【常食献立】

- ・巻き寿司・いなり寿司
- ・柿なます
- ・赤だし
- ・どら焼き



当たり前のように身近にある食べ物ですが、改めて無事収穫された（生産された）事に感謝しながら、食事を戴く日も必要ですね。